

第2学年 性教育 学習指導案

1. 題材 「性の問題行動と性被害」

2. 題材設定の理由

○題材観

「若者の性」白書、「平成19年度版青少年白書」によると、性の逸脱行動・被害で補導・保護された高校生、また被害を受ける高校生の数はやや減少傾向にあるものの、これらの被害は圧倒的に女子に偏っており、身体的・精神的・社会的に受けるダメージは、その人の人生を変えてしまう程とても大きい。高校生は、異性との交際など男女間の人間関係に興味をもつ傾向が高くなる時期であることを考えれば、この問題にきちんと向き合わせることが大切である。

○指導観

性教育は人権教育であり、命を大切にし、命を育み、命を守る教育という観点を持って実施することで、「人権尊重」「人間尊重」「男女平等」の精神を育み、自ら考え、判断する、自立した女性としての成長を目指す。

3. 目標

- 人間の生物学的性や、心理的、社会的、文化的性について自覚を深め、女性としての自己認識を確立する。
- 生命尊重、人間尊重、男女平等の精神に基づく異性観を確立し、将来を見通して、より適切な行動選択の能力や態度を育てる。
- 社会における自己の役割と責任を自覚し、直面する性の諸問題を適切に判断し、対処する能力や資質を育てる。

4. 指導計画

- 1年・・・男女平等と女と男の違いを性的役割やトランスジェンダー等を題材として考える。・・・1時間
- 2年・・・愛情の種類と価値を性の問題行動や性被害、男女交際、性情報等を題材として考える。・1時間、本時
- 3年・・・エイズなどによる人権侵害の状況について、何故、差別が起きるのかの認識を深める。・1時間

5. 本時の目標

- 性に関する正しい理解を基に、身体的な成熟や性的な発達に対応した適切な行動がとれるようにする。
- 性の問題行動・性被害は、人間尊重・男女平等の精神から絶対に許されないことを理解させる。
- 性の問題行動や性被害に対処する力や態度“性に関する自己決定能力”を育てる。

6. 指導上の留意点

- 性の問題行動・性被害の統計資料や、最近の社会事象を用いて、現状を認識させる。
- 性の問題行動・性被害について考え、具体的な心得が身に付くようにする。
- 自己の性を大切にする態度が身に付くようにする。

7. 教材 生徒： 犯罪被害の状況 プリント（資料①） 【2007.7.11 性教育講演会 プリント（資料②）、 2007.4.22 西日本新聞 記事（資料③）】

教師： 同じ ※ 生徒の状況に応じて、資料②～③のどれを取り上げるか事前に選択しておく。

8. 参考資料

- ・「若者の性」白書 財団法人 日本性教育協会編（小学館）
- ・平成19年度版 青少年白書
- ・性教育の手引 福岡県教育委員会編 福岡県教育庁
- ・2007.4.22 西日本新聞 記事
- ・性教育の手引 東京都教育庁指導部指導企画課 編集・発行
- ・NANA - ナナ - (13巻) 矢沢あい(集英社)

8. 過程

	学習活動・内容	指導上の留意点	教材	配時	形態	評価
準備	資料プリントの受け取り	○クラスの状況に応じて、資料②～④のどれか一つを事前に選択しておく。				
導入	挨拶および出席確認 本時の題材を確認する	○出席を確認し、授業の体制を整えさせる。 本時では、性の問題行動・性被害について、学習することを確認する。		2分	一斉	(1)
展 開	1. 性被害には、どのようなものがあるのか具体的に知る。 2. 「若者の性」白書の統計資料を学習する	○性の問題行動・性被害を示す 「視線被害」「痴漢被害」「露出行為被害」「言語的からかい」「性的誘惑」「性的行為の強要」→近年、減少傾向にある ○被害の説明をする。 ○新たに、情報化の発達により携帯メールを媒介とした被害が増加していること、メールを介したセクハラや異性のメル友に会ったときに起こる性被害が多く出てきている。（‘プロフ’トラブルの出現） また、性的行為の強要は、加害者の多くは知人や知り合いである。 恋人からのDV(デートDV)は、交際相手との性交経験後に様々な暴力が起りやすい特徴がある。	資料①	15分	一斉	(1) (2)
	3. 性被害の事例を話し合う。 6人一班に分かれる ・性教育講演会より(資料②) ・新聞記事より(資料③) ※資料②～③の内、選択した資料を配付する。 4. 各班の発表をする	○各班にプリントを配布し、それぞれの事例について考えさせ、意見を記入、まとめさせる。 ○各班を巡回し、指導助言を行う。 あなただったら、どの時点でどう行動するか 対処法はあるか 性被害を受けた女性の身体的・精神的・社会的なリスクを考える	資料② or ③ or ④	25分	各班	(1) (3)
	5. 性被害の影響や問題点、回復のための具体的な方法について考える。	○強姦は女性にとって心に深い傷を残すことをつたえる。 ○「男性が女性をリードすべき」「男性は生まれつき性欲が強い」といった男女間の非対称的な関係性や男性優位のジェンダー神話がこうした被害と無関係ではない。 ○望まない妊娠や性感染症の危険性、緊急避妊薬について触れる。 ○相談窓口や医療機関について確認させる。		5分	各班	(1) (2)
まとめ	6. “性に関する自己決定能力”について理解する。	○被害者にも加害者にもならないために、自分を大切にしないといけないことを伝える。行動に際しては、自分の心と身体を大切に考えた、主体的・判断力をもった責任ある行動を選択しようとする意識(=性に関する自己決定能力)を高めるよう指導助言する。		3分	一斉	(1) (3)
評価	(1)性に関する正しい理解を基盤に、身体的な成熟や性的な発達に対応した適切な行動をしようとする態度を示している。【関心・意欲・態度】 (2)性の問題行動・性被害は、人間尊重・男女平等の立場から絶対に許されないことを理解している。【知識・理解】 (3)性の問題行動や性被害に対処する力や態度“自己決定能力”を育もうとしている。【思考・判断】					